

2020年卒
Vol.07

5月1日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2020 学生モニター調査結果 (2019年5月発行)

企業の採用広報開始から2カ月。学生の就職活動はどのように進んでいるだろうか。5月1日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、選考解禁前にもかかわらず、内定率は5割を超えていることがわかった。

1. エントリー状況

- 一人あたりのエントリー社数の平均は27.2社。前年同期調査(28.5社)をやや下回る
- エントリー企業は、「3月より前のインターンシップなどで知った企業」の割合が年々増加

2. セミナー・会社説明会への参加状況

- 企業単独セミナーへの参加社数は10.3社。前年(12.0社)を下回る

3. リクルーターとの接触

- 過半数が接触経験を持つ。きっかけは「インターンシップに参加したら連絡が来た」が最多

4. 選考試験の受験状況

- エントリーシート提出社数は平均11.8社。筆記8.3社、面接5.4社。いずれも前年を上回る
- 全体の6割強(62.3%)が最終面接を経験。前年同期(54.3%)を8ポイント上回る

5. 5月1日現在の内定状況

- 内定率は51.1%。4月時点(26.4%)より24.7ポイント上昇
- 就職活動を終了したのは全体の2割(21.8%)。約8割が就職活動を継続

6. 内定を得た企業の属性

- 内定業界は「情報処理・ソフトウェア」「建設・住宅・不動産」「調査・コンサルタント」の順
- 1,000人以上の大手企業からの内定が6割(60.9%)を占める

7. 就職先決定者の動向

- 決めた背景「企業に満足したから」が最多。前年より6.4ポイント増加(85.9%→92.3%)
- 6割超が決定企業のインターンシップに参加経験を持つ

8. 就職活動継続学生の動向

- 現時点の志望業界1位「情報処理・ソフトウェア」、2位「銀行」、3位「インターネットサービス」
- 内定保持者の今後の方針は「内定企業よりも大きい企業を中心に活動」が過半数(52.0%)

9. 就活川柳

- 「私より 親が行きたい 大企業」「友達に 内定あること 言えてない」

調査概要

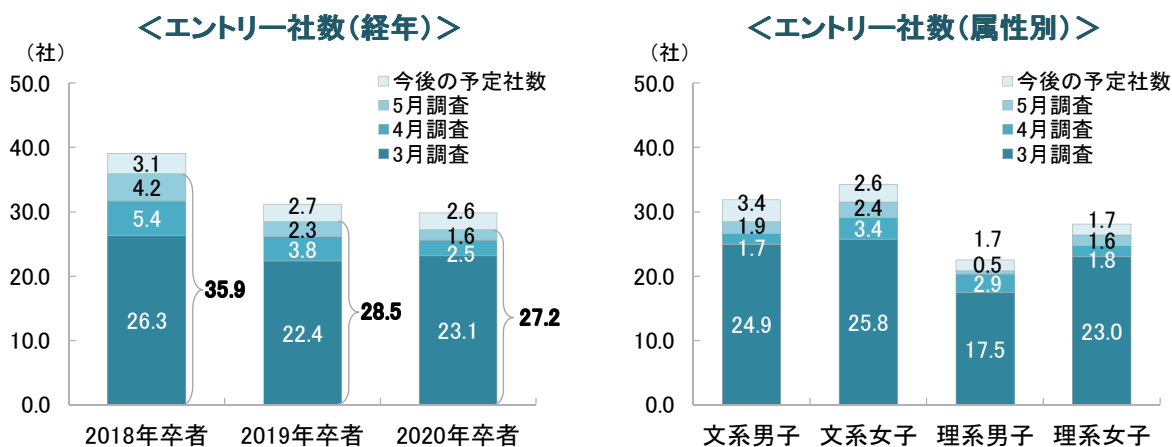
- 調査対象 : 2020年3月に卒業予定の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
回答者数 : 1,293人(文系男子419人、文系女子392人、理系男子339人、理系女子143人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2019年5月1日~6日
サンプリング : キャリタス就活2020学生モニター(2016年卒以前は「日経就職ナビ・就職活動モニター」)

1. エントリー状況

採用広報解禁から2カ月が経過した5月1日時点での就職活動状況を調べた。前回調査（今年4月）および前年度調査との比較を中心に、全体的な活動状況を確認してみたい。

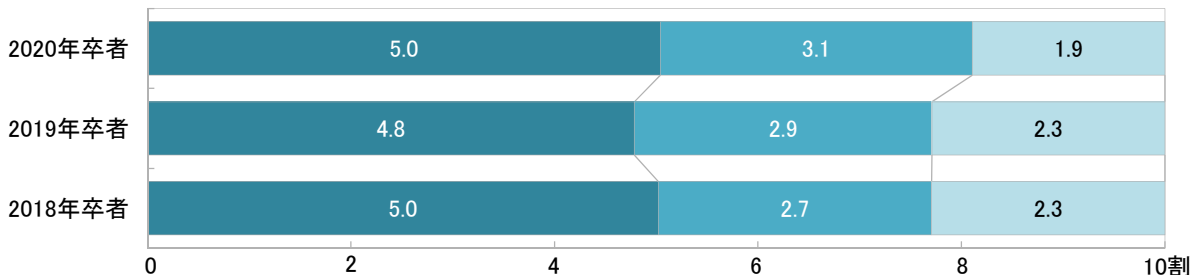
まず、一人あたりのエントリー社数の平均は27.2社。4月調査の25.6社から1.6社の増加にとどまり、前年同期調査（28.5社）をやや下回った。

一人あたりのエントリー社数はここ数年、前年実績を大幅に割り込む状態が続いているが、今年はこちらまでのところ微減にとどまっている。ただ、エントリーした企業を知った時期を経年で見ると、3月より前の活動で知った企業の割合が年々増加（2.7割→2.9割→3.1割）。就活解禁前（プレ期）の活動が活発になった結果、早期に接点を持った企業にエントリーする割合が増していることが読み取れる。

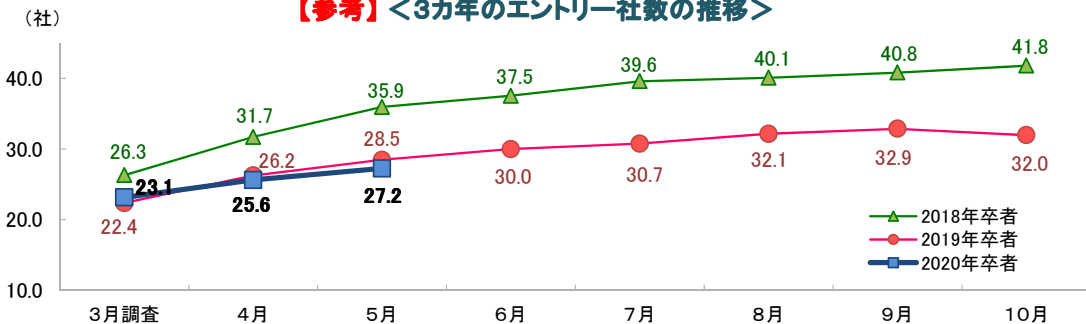


<エントリーした企業を知った時期(各年5月時点)>

■もともと知っていた企業 ■3月より前のインターンシップや業界研究などで知った企業 ■3月1日以降の就職活動で知った企業



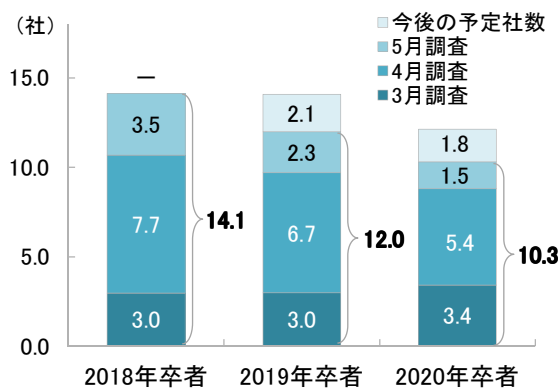
【参考】<3カ年のエントリー社数の推移>



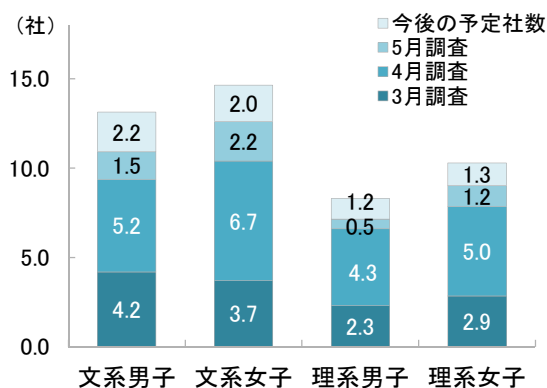
2. セミナー・会社説明会への参加状況

企業セミナーのこれまでの平均参加社数は10.3社で、前年同期(12.0社)を1.7社下回る。企業セミナーの参加は例年、採用広報解禁直後の3月がメインであるものの、この1カ月の増え幅が2社に満たない(平均1.5社)というのはかなり少ないのではないだろうか。すでに応募していた企業の選考が進んでいたことで、新たな企業のセミナーへと足を運ぶ学生は少なかったようだ。

＜企業セミナー参加社数(経年)＞



＜企業セミナー参加社数(属性別)＞



※「今後の予定社数」は2018年卒者は調査なし

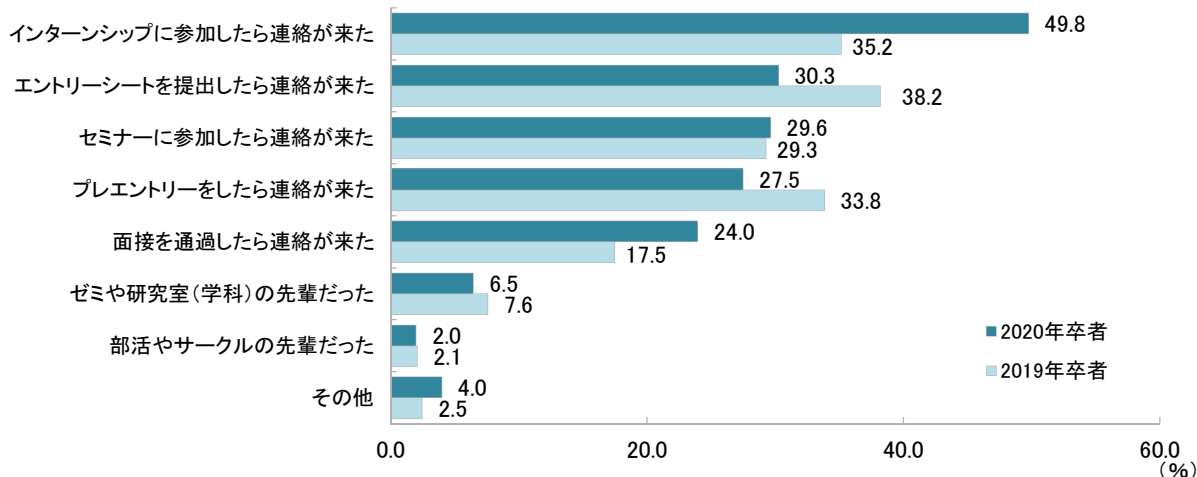
3. リクルーターとの接触

現時点でリクルーターとの接触経験があると回答した学生は約半数(50.3%)で、前年同期(43.9%)を6.4ポイント上回る。接触社数は平均2.8社。属性によってややばらつきがあり、文系男子は接触経験者が54.7%で他の属性より多く、接触社数も平均3.0社に上る。

リクルーターと接触したきっかけで最も多いのは「インターンシップに参加したら連絡が来た」で、前年の35.2%から49.8%へと大きく増加した。前年調査で最多だった「エントリーシートを提出したら」はポイントを下げている、リクルーターから声がかかるタイミングが早まったことが推測できる。

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
リクルーターから接触があった	50.3%	43.9%	54.7%	49.5%	47.2%	47.6%
リクルーター接触社数/平均	2.8社	2.6社	3.0社	2.9社	2.4社	2.6社

＜リクルーターと接触したきっかけ(ルート)＞



4. 選考試験の受験状況

5月1日時点で学生が企業の選考にどの程度進んでいるのかを確認してみよう。

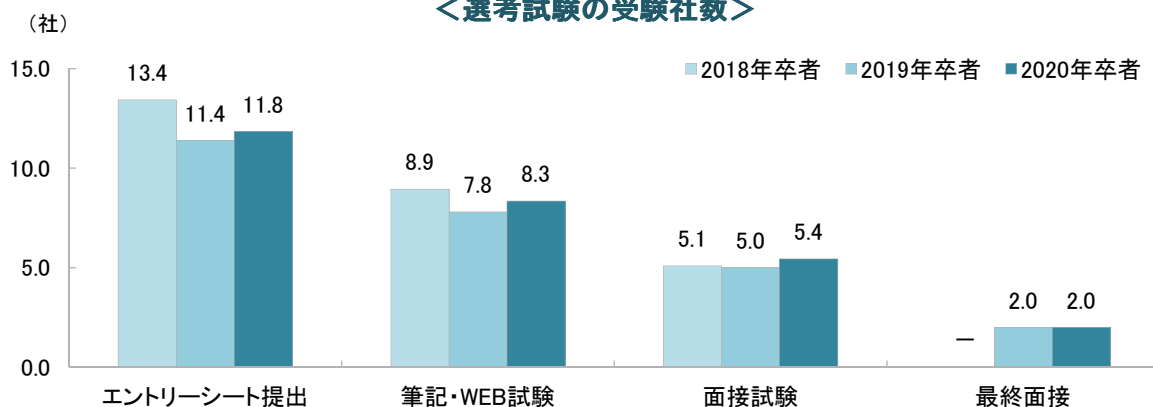
エントリーシート (ES) は 93.4% が提出。筆記試験、面接試験も 9 割前後が受験経験を持ち、いずれも前年同期との差は僅か。先月までは前年同期との差が大きく早期化が目立ったが、今回調査でその差は縮まった。ただし、最終面接については前年同期を 8 ポイント上回っており (54.3%→62.3%)、前倒しで実施されていることがうかがえる。

社数の平均を見ると、ES 提出社数は 11.8 社。先月調査では前年実績を 2 社近く上回っていたが、その後の伸びは鈍く、前年同期 (11.4 社) から微増にとどまった。企業側に前年よりも締切日を早める動きがあったが、その影響で提出のタイミングが早まっていたのだろう。筆記試験は 8.3 社、面接試験は 5.4 社だった。

<選考試験の受験状況>

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリーシート	93.4	93.1	93.6	94.6	91.4	94.4
筆記・WEB試験	93.3	92.4	92.6	93.4	93.2	95.1
面接試験	89.3	87.5	86.4	90.6	89.1	95.1
最終面接	62.3	54.3	57.0	61.0	65.8	73.4

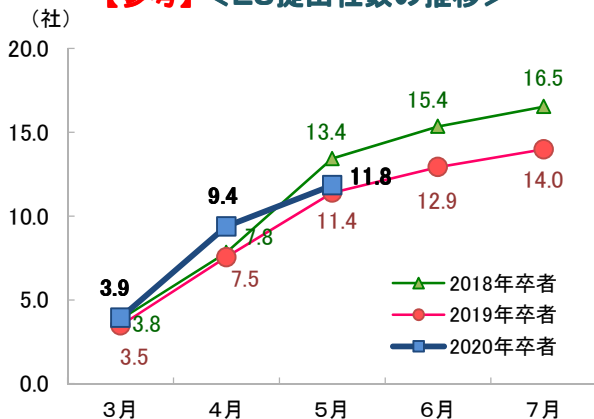
<選考試験の受験社数>



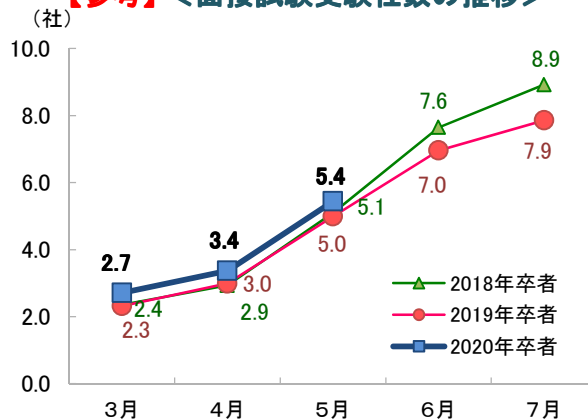
※それぞれ受験者を分母に平均社数を算出

※「最終面接」社数は2018年卒者は調査なし

【参考】<ES提出社数の推移>



【参考】<面接試験受験社数の推移>



5. 5月1日現在の内定状況

採用広報開始から2カ月が経過し、内定を手にする学生は一気に増えた。5月1日現在の内定率は51.1%。先月調査(26.4%)からの1カ月で24.7ポイント上昇し、半数を超えた。前年同期実績(42.2%)に比べ8.9ポイント高い。大型連休を前に内定を出した企業が多く、高水準の内定率につながったようだ。内定率は文系より理系で高く、男女とも6割に近い数字をマークした(理系男子58.7%、理系女子58.0%)。

なお、選考解禁日が現行の6月1日になった初年度(2017卒採用)は5月の内定率は29.1%だった。この3年で内定出しの早期化が進んだ様子が見取れる。

内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは35.4%。内定者のうち57.3%が就職活動を続けていると回答した。

<5月1日現在の内定状況>

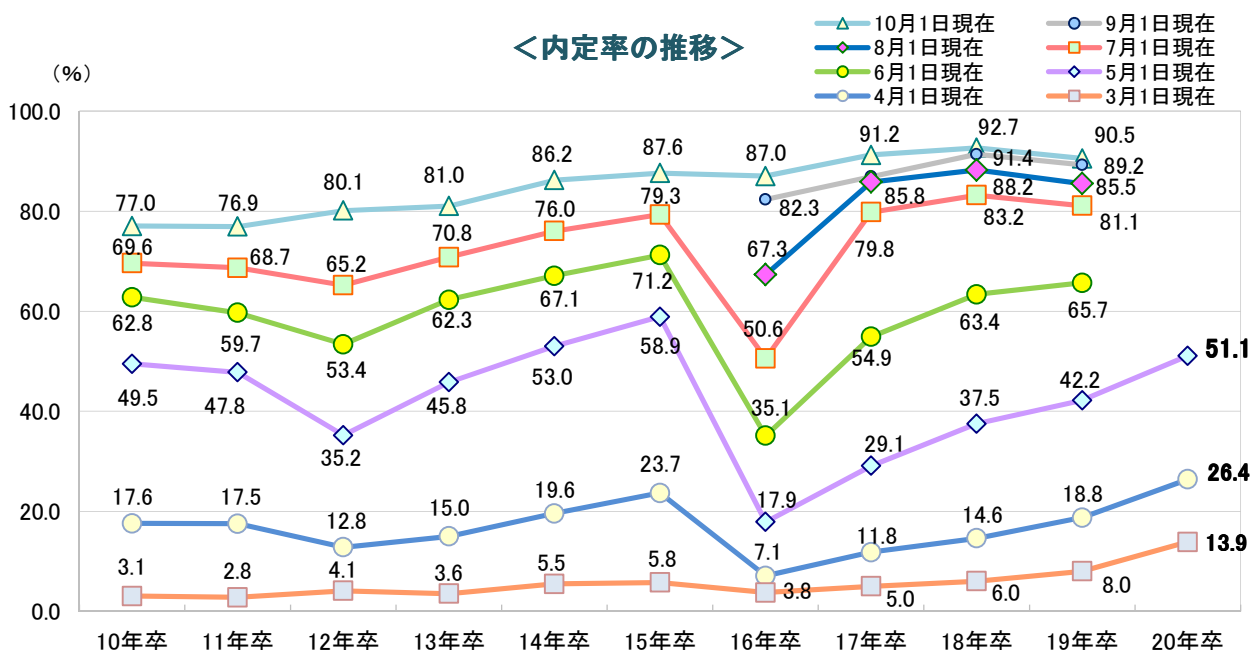
*「内定」には、内々定を含む

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		51.1 (42.2)	42.5 (38.3)	51.3 (37.6)	58.7 (49.8)	58.0 (47.2)
内定なし		48.9 (57.8)	57.5 (61.7)	48.7 (62.4)	41.3 (50.2)	42.0 (52.8)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	35.4 (29.5)	29.2 (19.4)	26.9 (21.4)	44.7 (42.4)	47.0 (37.3)
	活動は終了したが複数内定保持	6.7 (3.6)	5.6 (3.6)	5.5 (2.9)	8.0 (4.0)	8.4 (4.0)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.6 (0.6)	0.6 (0.0)	0.0 (0.7)	1.0 (1.3)	1.2 (0.0)
	就職活動継続	57.3 (66.3)	64.6 (77.0)	67.7 (75.0)	46.2 (52.3)	43.4 (58.7)

(%)

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		1.7 (1.6)	1.8 (1.7)	1.7 (1.6)	1.7 (1.7)	1.8 (1.6)

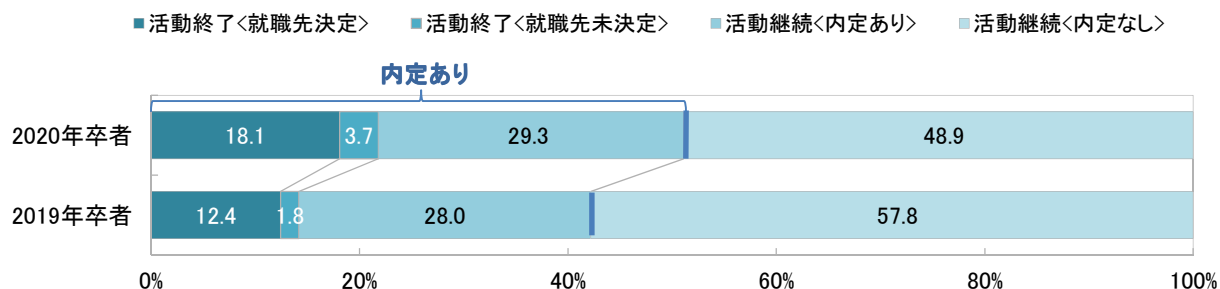
(社)



※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17～19卒は6月 ※15年卒以前は8月、9月のデータはなし

モニター学生全体を分母にして活動状況の分布を見ると、調査時点で就職先を決定して就職活動を終了した者の割合は18.1%。複数内定を保留しているなど未決定である者（3.7%）を合わせても2割程度にとどまる（計21.8%）。残りの8割近くは活動中であり、内定の有無によらず多くの学生にとって、やはり6月が正念場になりそうだ。

<活動状況の分布>



6. 内定を得た企業の属性

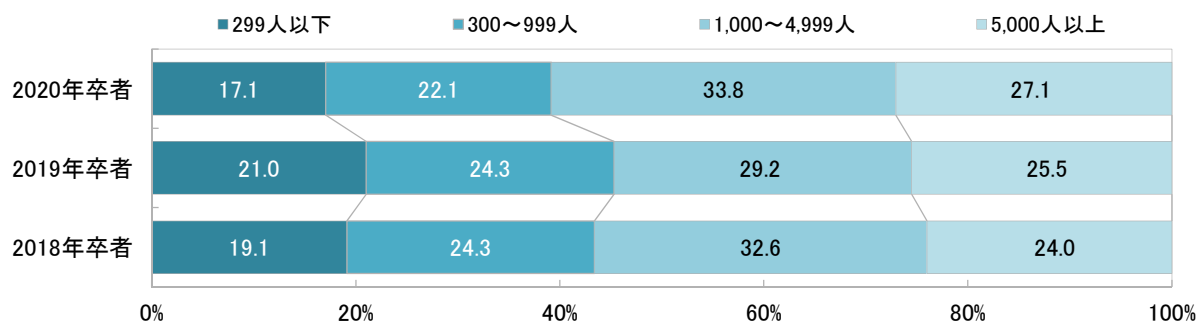
5月1日現在で内定を得ている学生に、内定企業の業界を尋ね、上位業界をまとめた（全40業界。複数回答あり）。「情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト」（30.3%）が先月に続き1位で、この1カ月でさらに多くの内定が出た。2位は「建設・住宅・不動産」（16.9%）。この2業界は文理ともに上位2位を占め、文理問わず採用意欲の高さがうかがえる。

内定を得た企業の従業員規模の比率を見てみると、最も多いのは「1,000人～4,999人」（33.8%）で、「5,000人以上」（27.1%）を合わせると60.9%となる。大手企業の内定が6割を占め、前年同期調査（計54.7%）よりも大手企業の割合が増えた。

<内定を得た業界（上位5業界）>

全 体		文 系		理 系	
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 30.3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 27.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 34.0		
2	建設・住宅・不動産 16.9	建設・住宅・不動産 14.8	建設・住宅・不動産 19.9		
3	調査・コンサルタント 11.5	調査・コンサルタント 14.2	電子・電機 14.9		
4	電子・電機 9.4	情報・インターネットサービス 8.4	素材・化学 9.9		
5	人材紹介・人材派遣 7.9	マスコミ 7.7	人材紹介・人材派遣 8.5		

<内定を得た企業の従業員規模>

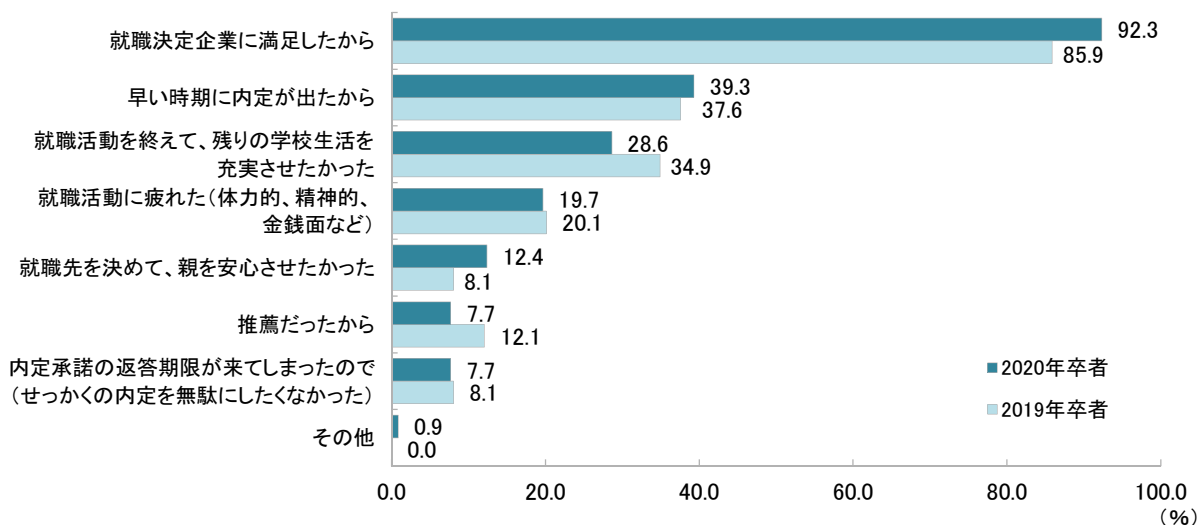


7. 就職先決定者の動向

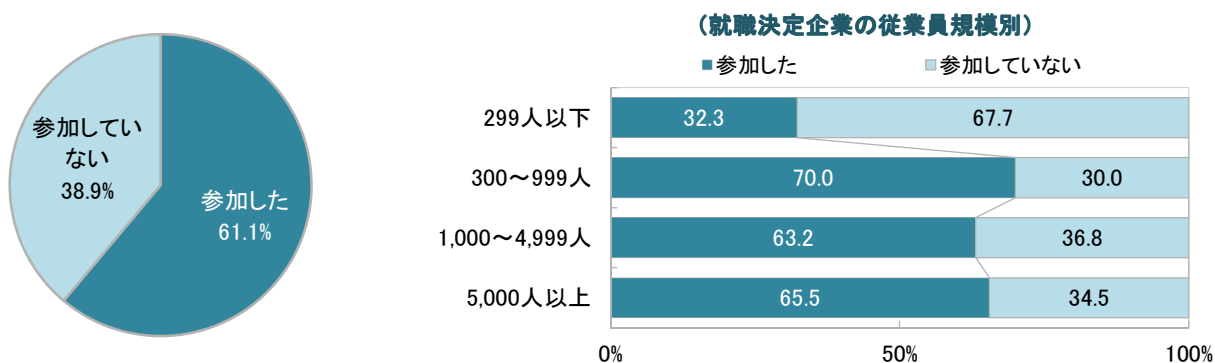
今回の調査時点で、早くも就職先を決定して就職活動を終了した学生（モニター全体の 18.1%）に、就活終了の背景を尋ねたところ、「就職決定企業に満足したから」が圧倒的に多く、9 割を超える（92.3%）。前年同期（85.9%）より 6.4 ポイント増加。2 番目に多い「早い時期に内定が出たから」（39.3%）の 2 倍以上に上る。

就職決定企業のインターンシップ参加状況を尋ねたところ、6 割を超える学生が「参加した」と回答（61.1%）。インターンシップやその後のフォローを通じて、その企業への理解度や志望度を上げていったことや、インターンシップ参加者を対象とした早期選考が増加していることなどから、早期に志望度の高い企業から内定を得て、就職活動を終了する学生が多いことがうかがえる。

<就職先を決めて就職活動を終了した背景>



<就職決定企業のインターンシップ参加状況>



■早期就職先決定者の声

- 周りよりも早め早めに行動して、用意周到に準備を進めてきたので、第一志望に早めに決まることができた。
<理系女子>
- インターンからの優遇選考や早期選考で、複数内定を得られた。
<文系女子>
- どの企業も動き出しが早かった印象を受けた分、早期から内々定を頂けたので、心に余裕を持って第一志望の企業を受けることができた。
<理系男子>

8. 就職活動継続学生の動向

内定保持者を含め就職活動を継続している学生 (モニター全体の 78.2%) の動向を確認したい。

現時点での志望業界を 40 業界の中から 5 つまで選んでももらったところ、最も多いのは「情報処理・ソフトウェア」(15.2%) で、以下「銀行」(14.5%)、「情報・インターネットサービス」(13.9%) と続き、IT 業界の人気の高いのが目立つ。ただし、全体的にポイントが分散している。

文理男女別に見ると、文系は男女とも「銀行」が最も多く、男子は「情報処理・ソフトウェア」が続き、女子は「マスコミ」が 2 位。理系は、男子は「電子・電機」が 1 位で、ここに IT 業界が続く。女子は「医薬品・化粧品」「水産・食品」「素材・化学」の 3 業界に人気が集中している。

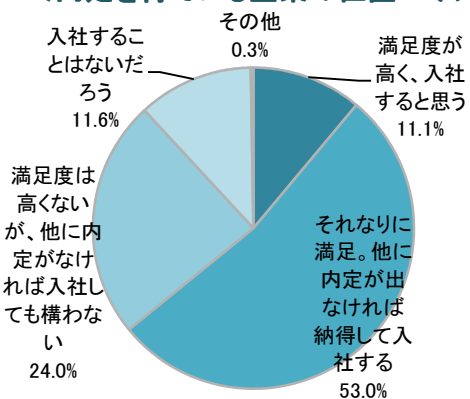
<就職活動継続者の志望業界 (上位 10 業界) >

全 体		文系男子		文系女子		理系男子		理系女子	
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ④ 15.2	銀行 19.9	銀行 18.9	電子・電機 22.7	医薬品・医療関連・化粧品 39.1				
2	銀行 ① 14.5	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 15.1	マスコミ 14.3	情報・インターネットサービス 22.2	水産・食品 28.7				
3	情報・インターネットサービス ⑦ 13.9	官公庁・団体 14.7	官公庁・団体 13.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 22.2	素材・化学 26.4				
4	電子・電機 ⑩ 13.5	運輸・倉庫 14.1	保険 12.5	自動車・輸送用機器 17.7	建設・住宅・不動産 12.6				
5	素材・化学 ④ 13.3	建設・住宅・不動産 14.1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 11.8	素材・化学 17.7	商社 (専門) 12.6				
6	水産・食品 ② 12.9	商社 (総合) 12.8	医薬品・医療関連・化粧品 11.4	精密機器・医療用機器 16.3	官公庁・団体 11.5				
7	官公庁・団体 ③ 12.7	情報・インターネットサービス 11.9	運輸・倉庫 11.4	医薬品・医療関連・化粧品 14.3	精密機器・医療用機器 11.5				
8	医薬品・医療関連・化粧品 ⑧ 12.6	水産・食品 11.9	情報・インターネットサービス 11.4	機械・プラントエンジニアリング 13.8	情報・インターネットサービス 10.3				
9	建設・住宅・不動産 ⑨ 12.0	商社 (専門) 11.5	建設・住宅・不動産 11.1	水産・食品 12.8	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 10.3				
10	運輸・倉庫 ⑥ 11.1	保険 11.2	電子・電機 11.1	調査・コンサルタント 12.8	印刷・パッケージ 9.2				
※○の中の数字は前年同調査の全体順位10位以内						電子・電機 9.2			

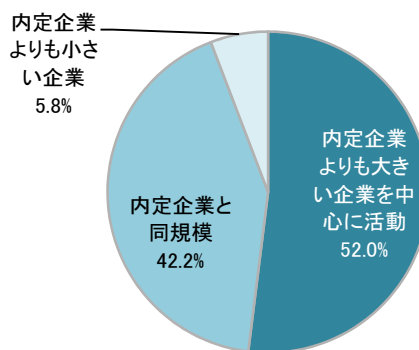
内定を持ちながら就職活動を継続している者 (モニター全体の 29.3%) に、内定企業の位置づけを尋ねたところ「満足度が高く、入社すると思う」(11.1%) 「それなりに満足。他に内定が出なければ納得して入社する」(53.0%) を合わせて 6 割以上は、現在の内定企業へ入社に前向きであることがわかる。

今後の活動の中心とする企業規模については、「内定企業よりも大きい企業を中心に活動」が半数を超える (52.0%)。内定保持企業への入社意欲はそれなりにあるものの、より大手の企業に挑戦しようという戦略が読み取れる。

<内定を得ている企業の位置づけ>



<内定保持者の今後の活動方針>

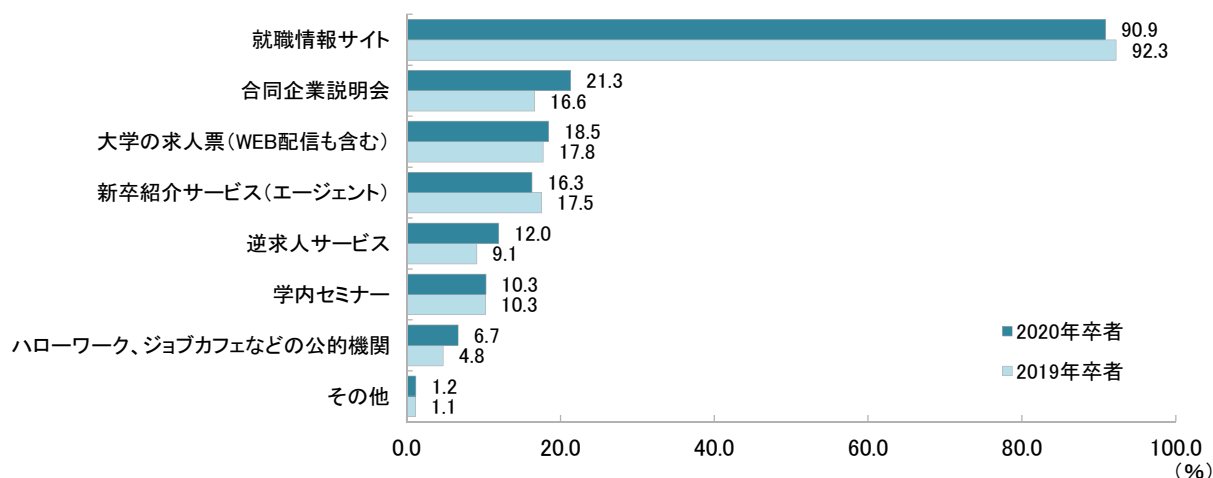


内定保持者を含めた就活継続者に、今後のエントリー予定社数を尋ねたところ、平均は 2.6 社。「内定あり」の学生は 1.1 社に対し、「内定なし」の学生は 3.5 社で、未内定学生が積極的に持ち駒を増やそうとする動きがうかがえる。

今後のエントリー予定社数を 1 社以上と回答した学生に、新たな企業を探す手段（ツール）を尋ねると、「就職情報サイト」が約 9 割（90.9%）で圧倒的に高く、序盤から長く企業探しのメインツールとして利用されていることがわかる。

	全体	内定あり	内定なし	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
今後のエントリー予定社数	2.6	1.1	3.5	3.4	2.6	1.7	1.7
今後の企業単独セミナー参加予定社数	1.8	0.9	2.4	2.2	2.0	1.2	1.3

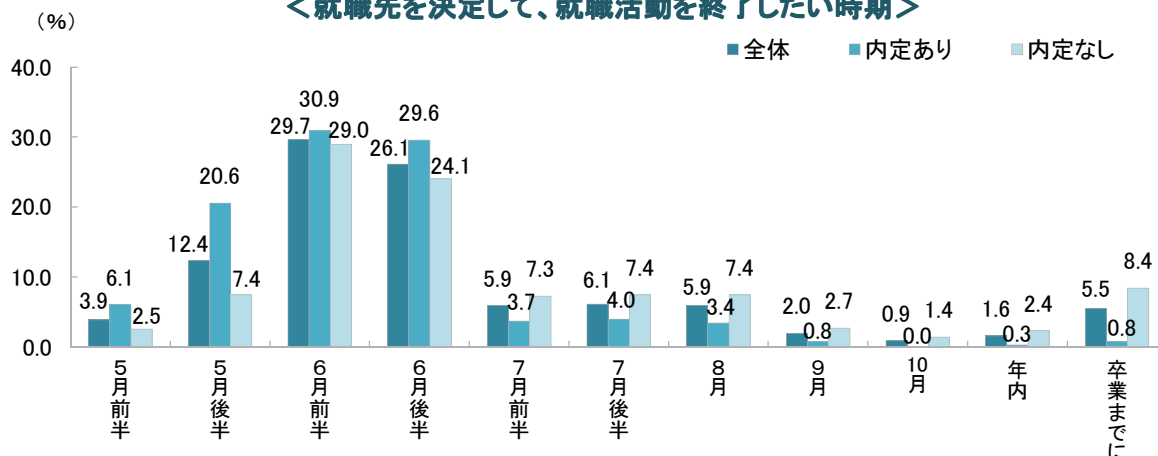
<新たな企業を探す手段>



就職先を決定して就職活動を終了したいと思う時期は、「6 月前半」が約 3 割で最も多い（29.7%）。「6 月後半」を合わせると 55.8% になり、活動継続学生の半数強が「6 月が正念場」と捉えている様子が見える。6 月後半までを合計すると 72.1% になり、約 7 割が 6 月末までに就職活動を終了したいと考えている。

なお、内定の有無別に見ても「6 月前半」が最も多いが、「内定あり」の学生では 5 月が合計 26.7% に上り、6 月の選考解禁を待たずに終了したいと考えている学生も一定数見られる。

<就職先を決定して、就職活動を終了したい時期>



9. 就活川柳

ここまでの就職活動で感じたことを、思いつくまま川柳に詠んでもらった。全 521 作品が寄せられた中から、ユーモアや風刺の効いた一例を紹介したい。

「売り手市場」と言われ、早期化が加速する就職戦線での複雑な思いや、内定獲得へのプレッシャーなど、どれも就活生の率直な心情が表れている。

